シラバス参照

タイトル「**2022年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	SSCS2334		
科目名	冬季スポーツ論		
担当教員	鈴木　典,西川　大輔		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木１		
講義室	1407	単位区分	選,選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E（学識・専門技能）専門分野に係る理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F（探求力・課題解決能力）問題を設定し又は論点を設定し、それに対する答え・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I（理解力・分析力）文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■CRコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1　学識と専門技能（50%） F2　探求力・課題解決能力（25%） I1　理解力・分析力（25%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応 ２進行期～３発展期		
科目概要・キーワード	本授業は、審査員、審判員が評価を行い、演技の優劣によって勝敗が決定する評定競技に分類される各種目(体操競技、新体操、フィギュアスケートなど)の競技特性、競技システムとルール、競技会システム、審判法の特性、評定競技における技術、体力、戦術、また、各種目における採点規則や美的規範など個々の種目のトレーニング計画などに関する学修を行います。これによって評定競技に通底する特性を理解し、評定競技を広い視野で捉え、自らの実践やコーチングに役立てることを目的とします。 授業形態は講義形式とし、資料・視聴覚教材も使用して実施します。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。 ■キーワード 評定競技・トレーニング方法・トレーニング計画		
授業の趣旨	■副題 評定競技に分類される様々な種目（体操競技、新体操、アーティスティックスイミング、フィギュアスケートなど）の「競技システムとルール（採点基準など）」、「アスリートの生理的、心理的特性とトレーニング方法」、「採点と測定要素との関係」の３方向から、実践的な競技力向上方略を検討します。 ■授業の目的 コーチング学は個別学問領域（スポーツ生理学、スポーツ心理学、バイオメカニクスなど）の知見に立脚した「トレーニング理論」をスポーツの指導実践場面に適用し、競技力向上を促進する学問です。本講義でも、「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測		

	定要素との関係」の２つの理論知に基づき、アスリートの競技力向上を促進するコーチング（実践知）の修得を目的とします。 ■授業のポイント 学修の対象は夏季、および冬季オリンピックで実施されている競技種目とします。授業では先ず、各種目の「競技システムとルール（採点基準など）」を検証し、高い採点を獲得する要素を確認します。次いで、「採点と測定要素との関係」を検証します。例えば、スキー・ジャンプ種目では飛距離点（測定要素）と飛型点（採点要素）に高い相関が認められますが、同様の関係が他の競技種目でも確認されると考えられます。これらの理論知、およびアスリートの生理的、心理的特性を把握した上で、競技力向上方略（実践知/アスリートの競技力向上を促進する実践的コーチング）について検討を進めます。
総合到達目標	■夏季、冬季オリンピックで実施されている評定競技種目を対象とし、「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」の理論知に基づき、自身の競技経験も踏まえ、アスリートの競技力向上を促進する実践的なコーチング方略を修得する。 ・体操競技を対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」について説明できる。（第２回） ・体操競技を対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」に基づく実践的コーチング方略が説明できる。（第３回） ・新体操とトランポリンを対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」について説明できる。（第４回） ・新体操とトランポリンを対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」に基づく実践的コーチング方略が説明できる。（第５回） ・アーティスティックスイミング、飛び込みを対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」に基づく実践的コーチング方略が説明できる。（第６回） ・サーフィン、スケートボードを対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」に基づく実践的コーチング方略が説明できる。（第７回） ・夏季オリンピックの評定競技種目を対象とした実践的コーチング方略を総括的に説明できる。（第８回） ・スキー・ジャンプ種目を対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」に基づく実践的コーチング方略が説明できる。（第９回） ・スキー・フリースタイル、スノーボード種目を対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」について説明できる。（第１０回） ・スキー・フリースタイル、スノーボード種目を対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」に基づく実践的コーチング方略が説明できる。（第１１回） ・フィギュアスケート種目を対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」について説明できる。（第１２回） ・フィギュアスケート種目を対象とした「競技システムとルール」、および「採点と測定要素との関係」に基づく実践的コーチング方略が説明できる。（第１３回） ・冬季オリンピックの評定競技種目を対象とした実践的コーチング方略を総括的に説明できる。（第１４回） ・自身の競技経験を踏まえ、評定競技種目の実践的コーチング戦略を総括的に説明できる。（第１５回）
成績評価方法	■小レポート２回（各30%）：適用ルーブリック　E１、F２、I１ （評価の観点）夏季と冬季オリンピック、それぞれの評定競技種目について、「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」（理論知）と「実践的コーチング方略」（実践知）が対応付けて記述されているか、またその対応付けは妥当かどうかを中心に評価します。 （フィードバック方法）授業時間中に理論知と実践知を対応付ける観点、および妥当性について解説します。 ■総括レポート１回（40%）：適用ルーブリック　E１、F２、I１ （評価の観点）オリンピックで実施されている評定競技種目について、「競技システムとルール（採点基準など）」、「採点と測定要素との関係」（理論知）、およびアスリートの生理的、心理的特性を把握した上で、自身の競技経験も踏まえた「実践的コーチング方略」（実践知）が展開されているかどうかを中心に評価します。 （フィードバック方法）授業時間中に１４回の講義の補足事項を含めて解説します。
履修条件	特にありません。
履修上の注意点	講義を基本的な授業形態としますが、視聴覚教材の利用、および講義ノートや配布資料に基づくショートプレゼンテーション等、アクティブラーニングにも対応できる様、予習と復習を含めて講義ノートや資料を整理しておいて下さい。授業毎に資料を配布しますが、各自で講義ノートを準備して下さい。
授業内容	

回	内容
1	①授業テーマ　ガイダンス（講義全体のテーマ、および授業の進め方の説明） ②授業概要　本科目の概要、授業の進め方と評価、および学修を行うにあたって留意す

		べき点等を概説し、受講生が授業の準備を具体的に実施できる様にします。（F２） ③予習（120分）シラバスを精読し、図書館等の参考図書も活用して、授業の全体像を把握する。 ④復習（120分）講義ノートや資料を再確認し、授業の全体像や評価等を把握して、学修計画を立案する。
	2	①授業テーマ　夏季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（1） ②授業概要　体操競技を対象とした「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」について、講義ノートや配布資料に基づいて説明できる。（Ｅ1、Ｉ1） ③予習（120分）参考図書等から、体操競技の「競技システムとルール（採点基準など）」を調べる。また、体操競技の先行研究（生理学、力学、心理学等）を確認する。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係を整理する。
	3	①授業テーマ　夏季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（2） ②授業概要　体操競技を対象とした「実践的コーチング方略」について、前回授業の講義ノートや配布資料も参照して説明できる。（Ｅ1、Ｆ２） ③予習（120分）前回の授業を踏まえ、参考図書や先行研究等から、アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法を調べる。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	4	①授業テーマ　夏季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（3） ②授業概要　新体操、トランポリンを対象とした「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」について、講義ノートや配布資料に基づいて説明できる。（Ｅ1、Ｉ1） ③予習（120分）参考図書等から、新体操、トランポリンの「競技システムとルール（採点基準など）」を調べる。また、先行研究（生理学、力学、心理学等）を確認する。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係を整理する。
	5	①授業テーマ　夏季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（4） ②授業概要　新体操、トランポリンを対象とした「実践的コーチング方略」について、前回授業の講義ノートや配布資料も参照して説明できる。（Ｅ1、Ｆ２） ③予習（120分）前回の授業を踏まえ、参考図書や先行研究等から、アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法を調べる。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	6	①授業テーマ　夏季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（5） ②授業概要　アーティスティックスイミング、飛び込みを対象とした「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」に基づき、「実践的コーチング方略」について説明できる。（Ｅ1、Ｆ２、I1） ③予習（120分）参考図書や先行研究等から、「競技システムとルール（採点基準など）」、「採点と測定要素との関係」、「アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法」等を調べる。（Ｅ1、Ｉ1） ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	7	①授業テーマ　夏季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（6） ②授業概要　サーフィン、スケートボードを対象とした「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」に基づき、「実践的コーチング方略」について説明できる。（Ｅ1、Ｆ２、I1） ③予習（120分）参考図書や先行研究等から、「競技システムとルール（採点基準など）」、「採点と測定要素との関係」、「アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法」等を調べる。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	8	①授業テーマ　夏季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（7）【小レポート作成1】 ②授業概要　夏季オリンピックの評定競技種目について、「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」に基づく「実践的コーチング方略」を総括し、小レポートにまとめる。（Ｅ1、Ｆ２、I1） ③予習（120分）前回までの講義ノートや資料を参照し、夏季オリンピックの評定競技種目全般について、「競技システムとルール（採点基準など）」、「採点と測定要素との関係」、「アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法」に基づく「実践的コーチング方略」を自身の競技経験も踏まえ確認する。

		④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	9	①授業テーマ　冬季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（1） ②授業概要　スキー・ジャンプを対象とした「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」に基づき、「実践的コーチング方略」について説明できる。（Ｅ1、Ｆ２、I1） ③予習（120分）参考図書や先行研究等から、「競技システムとルール（採点基準など）」、「採点と測定要素との関係」、「アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法」等を調べる。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	10	①授業テーマ　冬季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（2） ②授業概要　スキー・フリースタイル、スノーボードを対象とした「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」について、講義ノートや配布資料に基づいて説明できる。（Ｅ1、Ｉ1） ③予習（120分）参考図書等から、フリースタイル、スノーボードの「競技システムとルール（採点基準など）」を調べる。また、先行研究（生理学、力学、心理学等）を確認する。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係を整理する。
	11	①授業テーマ　冬季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（3） ②授業概要　スキー・フリースタイル、スノーボードを対象とした「実践的コーチング方略」について、前回授業の講義ノートや配布資料も参照して説明できる。（Ｅ1、Ｆ２） ③予習（120分）前回の授業を踏まえ、参考図書や先行研究等から、アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法を調べる。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	12	①授業テーマ　冬季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（4） ②授業概要　フィギュアスケートを対象とした「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」について、講義ノートや配布資料に基づいて説明できる。（Ｅ1、Ｉ1） ③予習（120分）参考図書等から、フィギュアスケートの「競技システムとルール（採点基準など）」を調べる。また、先行研究（生理学、力学、心理学等）を確認する。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係を整理する。
	13	①授業テーマ　冬季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（5） ②授業概要　フィギュアスケート競技を対象とした「実践的コーチング方略」について、前回授業の講義ノートや配布資料も参照して説明できる。（Ｅ1、Ｆ２） ③予習（120分）前回の授業を踏まえ、参考図書や先行研究等から、アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法を調べる。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	14	①授業テーマ　冬季オリンピックにおける評定競技種目の実践的コーチング方略（6）【小レポート作成2】 ②授業概要　冬季オリンピックの評定競技種目について、「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」に基づく「実践的コーチング方略」を総括し、小レポートにまとめる。（Ｅ1、Ｆ２、I1） ③予習（120分）前回までの講義ノートや資料を参照し、冬季オリンピックの評定競技種目全般について、「競技システムとルール（採点基準など）」、「採点と測定要素との関係」、「アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法」に基づく「実践的コーチング方略」を自身の競技経験も踏まえ確認する。 ④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
	15	①授業テーマ　授業の総括【総括レポート作成】 ②授業概要　夏季、冬季オリンピックの評定競技種目について、「競技システムとルール（採点基準など）」、および「採点と測定要素との関係」に基づく「実践的コーチング方略」を総括レポートにまとめる。（Ｅ1、Ｆ２、I1） ③予習（120分）前回までの講義ノートや資料を参照し、夏季、冬季オリンピックの評定競技種目全般について、「競技システムとルール（採点基準など）」、「採点と測定要素との関係」、「アスリートの生理的、心理的特性に基づくトレーニング方法」に基づく「実践的コーチング方略」を自身の競技経験も踏まえ確認する。

	④復習（120分）講義ノートや資料に基づき、採点と測定要素との関係に即した実践的コーチング方略（具体的なトレーニング課題やトレーニング方法等）を整理する。
関連科目	評定競技論演習（SSCS3406S）
教科書	特に指定しません。
参考書・参考ＵＲＬ	公益財団法人日本体操協会　https://www.jpn-gym.or.jp/ 公益財団法人日本水泳連盟　https://swim.or.jp/ 一般社団法人日本サーフィン連盟　https://www.nsa-surf.org/ 一般社団法人日本スケートボーディング連盟　https://japanskateboardingfederation.jp/ 公益財団法人全日本スキー連盟ライブラリー（各競技規則・ガイドライン等） http://www.ski-japan.or.jp/library/ 公益財団法人日本スケート連盟　https://www.skatingjapan.or.jp/ 中野昭一他編（1996）運動とエネルギーの科学，杏林書院，ISBN　4-7644-1030-3
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー　開講時に告知します。 オフィスアワー以外の時間は日時を調整の上、研究室、またはコモンスペースで対応します。
研究比率	

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.